

# ネギほ場の排水性の改善に向けて

## ～モミサブロー実演会の実施～

山武農業事務所改良普及課 令和4年7月12日発

山武地域は県内有数のネギ産地として知られていますが、近年は豪雨が多く、これに対するほ場の排水性が十分でないため、湿害が問題となっています。そこで、農業事務所では、排水性改善に向けた取り組みの一環として、農協や機械メーカーと連携し、6月21日に山武市内のネギほ場においてもみ殻埋設機「モミサブロー」による排水対策実演会を開催しました。当日は、農業者や関係機関合わせて34人が参加しました。

モミサブローはほ場に溝を切り、そこにもみ殻を充填する機械で、ほ場に溜まった水の逃げ道を作ります。もみ殻の充填により、溝が埋まりやすい砂質土壌の畑でも排水機能が長持ちすることが期待されます。実際に施工を行った農業者からは、「操作は難しくなかった、排水が良くなることを期待したい。」との感想が聞かれました。

今後、農業事務所では、施工の効果を検証し、ネギ産地の生産力向上をめざします。



実演会の様子



モミサブロー施工後のほ場断面